

作成日 2013年 2月28日
改訂日 2024年 4月 1日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : 泡ショットブリーチ
供給者の会社名称 : 厨房用漂白剤
住所 : ライオンハイジーン株式会社
担当部門 : 東京都台東区蔵前1-3-28
電話番号 : 企画開発部 研究所
FAX番号 : 03-3616-3159
緊急連絡電話番号 : 03-3616-3208
緊急連絡先 : 03-3616-3159
製品の用途 : 厨房用の除菌・漂白・除臭
使用上の制限 : 推奨用途以外で使用しない
整理番号 : 2070

2. 有害危険性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性

爆発物 : 分類できない
可燃性ガス : 分類できない
エアゾール : 分類できない
酸化性ガス : 区分に該当しない
高压ガス : 区分に該当しない
引火性液体 : 分類できない
可燃性固体 : 分類できない
自己反応性化学品 : 分類できない
自然発火性液体 : 分類できない
自然発火性固体 : 分類できない
自己発熱性化学品 : 分類できない
水反応可燃性化学品 : 分類できない
酸化性液体 : 分類できない
酸化性固体 : 区分に該当しない
有機過氧化物 : 分類できない
金属腐食性化学品 : 分類できない
鈍性化爆発物 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
急性毒性(経皮) : 区分に該当しない
急性毒性(吸入:気体) : 区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分に該当しない
急性毒性(吸入:粉じん及びミスト) : 区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
呼吸器感受性 : 区分に該当しない
皮膚感受性 : 区分に該当しない
生殖細胞変異原性 : 区分に該当しない
発がん性 : 区分に該当しない
生殖毒性 : 区分に該当しない
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分2
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分に該当しない
誤えん有害性 : 分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分2
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない
オゾン層への有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示またはシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報	:	飲み込むと有害 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 臓器の障害のおそれ(呼吸器系) 水生生物に毒性
注意書き 安全対策(予防策)	:	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置(対応策)	:	飲み込んだ場合に気分が悪い時は医師に連絡すること。 飲み込んだ場合は口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚(又は髪)に付着した場合は直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 吸入した場合は空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合は水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露またはばく露の懸念がある場合は医師に連絡すること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
保管(貯蔵) 廃棄	:	施錠して保管すること。 内容物/容器を国内法規に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	混合物
化学特性	:	塩素系除菌・漂白・除臭剤
成分及び濃度		
化学名	:	次亜塩素酸ソーダ アルキルアミノキシド 水酸化ナトリウム
CAS番号	:	7681-52-9 1643-20-5 1310-73-2
濃度又は濃度範囲(%)	:	非開示 1%未満 非開示
官報公示整理番号(化審法)	:	(1)-237 (2)-198 (1)-410

4. 応急措置

吸入した場合	:	塩素ガスを吸入した場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、次の処置をする。 1) 咳がでる程度のときは新鮮な空気の風通しの良い所で身体を楽にして、休息させる。 2) ガスで眼を痛めたときは、眼を開いたまま洗眼し、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに多量の水で洗い流す。必要に応じて医師の診断を受ける。
目に入った場合	:	流水で15分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。この場合清浄な微温湯が容易に得られる時は疼痛を軽減する点で冷水洗浄よりも効果がある。
飲み込んだ場合	:	直ちに口の中の水を洗浄し、多量の水又は牛乳や生卵を飲ませる。意識のない場合は口から何も与えない。無理に吐かせず速やかに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	大量の水による。
使ってはならない消火剤	:	データなし
特有の消火方法	:	火元への燃焼源を断ち、容器を安全な場所に移動する。移動不可能な場合は容器に注水して冷却する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	人体や衣服を損傷するので、水洗いにより早急に除去する。極めて腐食性が強いので、必ず保護具を着用する。
環境に対する注意事項	:	多量に漏れた場合は、河川等に排出されないように回収、詰め替え、還元分解などの措置を講じる。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	:	土砂等で流出防止用の堤防を作り、空容器に回収するか又は土砂等に吸収させてから容器を回収する。できるだけ取り除いた後、漏出した場所は大量の水で洗い流す。必要なら亜硫酸ナトリウムを用いて分解してから大量の水で洗い流す。この場合濃厚な廃液が下水溝、河川等へ流入しないよう注意する。

- 二次災害の防止策 : 1)周辺地域の住民に直ちに警告し、危険地域から避難させる。
2)周辺住民、交通機関等に影響を及ぼす可能性のある場合は、関係官庁及び当社の緊急連絡先へ通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 (局所排気・全体換気等) : 局所排気及び全体排気設備を設ける。保護具を着用し、眼、皮膚への接触を避ける。
安全取扱注意事項 : 1)屋外又は換気の良い区域のみで取扱うこと。
2)「2. 危険有害性情報」を熟知し、人体との接触を避けること。
3)可燃物、アセチレン、エチレン、水素、アンモニア、微細金属との接触禁止。
4)作業中に温度が上昇したり、重金属類の混入があると分解し酸素ガスを発生する。
5)酸と接触したり、pHが低下すると塩素ガスの発生が起きるので注意が必要である。

保管

- 安全な保管条件(適切な技術対策、及び混触禁止物質との分離) : 1)直射日光を避け、品質(有効塩素)維持のため、20℃以下に保ち貯蔵するのが望ましい。
2)重金属類(コバルト、ニッケル、クロム、銅、鉄など)が存在するとそれらが触媒となり、分解を促進するため、貯蔵する容器内にこれらの重金属類が混入しないようにする。
3)貯槽は樹脂製または鉄板製のタンクの内面に耐食性材料をライニングまたはコーティングしたもの、あるいは耐食性材料で製作したものを使用する。腐食性が強いので鉄製のものを使用できない。チタンあるいは硬質塩化ビニルなどの樹脂系のものがよい。ゴム製のは長期間には膨潤するものもあるので注意を要する。
4)貯槽への受入配管は、他の配管と区別し、次亜塩素酸ソーダ用受入口には、見易い個所に品名を表示する。容器は高圧ガス保安協会指針に基づき、1年以内に使用後は速やかに販売業者に返却すること
5)「10. 安全性及び反応性」を参照し、混触危険物質との接触を禁止する。酸、金属類、可燃物等から離して保管する。
安全な容器包装材料(推奨材料及び不適切材料) : 1)金属類、天然繊維の多くを侵す。
2)腐食性があるので鉄製の容器は使用しない。
3)塩ビ、ポリエチレン、チタン、PTFE等を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない
許容濃度-日本産業衛生学会 : 設定されていない
許容濃度-ACGIH : 設定されていない
設備対策 : 屋内作業所での使用時は、局所排気装置を設置する。
保護具
呼吸用保護具 : 必要に応じてマスク
手の保護具 : 不浸透性保護手袋
眼の保護具 : 密着型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性保護衣

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
色 : 淡黄色透明
臭い : 特有の刺激臭がある。
融点/凝固点 : データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし
可燃性 : データなし
爆発下限界及び上限界/可燃限界 : 爆発性なし
引火点 : 引火性なし
自然発火点 : データなし
分解温度 : データなし
pH : 13.0以上(25℃、原液)
動粘性率 : データなし
溶解度 : 水に良
n-オクタノール/水分配係数(log値) : データなし
蒸気圧 : データなし
密度及び/又は相対密度 : 1.047(20℃)
相対ガス密度 : データなし
粒子特性 : データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性 : データなし
- 化学的安定性 : 空気、熱、光、金属などに極めて不安定で、放置すると徐々に分解し有効塩素を失う。
- 危険有害反応可能性 : 自己反応性、爆発性なし
- 避けるべき条件 : 腐食性があるので鉄製の容器は使用しない。
- 混触危険物質 : アミン類やアンモニアと反応して有害で爆発性の三塩化窒素を発生する。酸との接触やpHの低下により塩素ガスを発生する。
- 危険有害な分解生成物 : 酸との混合により塩素ガスが発生する。

11. 有害性情報

	次亜塩素酸ナトリウム	アルキルアミノオキシド
急性毒性	経口投与 マウス LD ₅₀ 雄 6.8ml/kg、雌 5.8ml/kg (有効塩素 10%) 幼児経口致死量 15~30ml (5%液)	LD ₅₀ >2000mg/kg (経口/ラット/OECD 401)
皮膚腐食性/刺激性	腐食性があり、皮膚、眼、粘膜を激しく刺激する。ミストを吸入すると気道粘膜を刺激し、しわがれ声、咽頭部の灼熱感、疼痛、激しい咳、肺浮腫を生ずる	刺激性あり (ウサギ/CESIO)
眼に対する重篤な損傷/刺激性	原液 0.1ml を雄ウサギに点眼すると、血液様分泌物の流出、角膜の泥濁及び結膜・瞬膜の軽度な発赤並びに腫脹などが認められる	重篤な眼球損傷のリスクあり (ウサギ/CESIO)
呼吸器感作性/皮膚感作性	データなし	皮膚感作性なし (主成分の NITE データ引用)
生殖細胞変異原性	Ames 試験 陰性 染色体異常試験 陽性	Ames 試験 陰性
発がん性	データなし	データなし
生殖毒性	データなし	データなし
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	データなし	データなし
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	F-344 ラット (7 週齢) に飲料水として投与した場合、2 週間の投与で、0.25% 以上 13 週間の投与では 0.2% 以上で、著しい体重増加抑制が見られた	データなし
誤えん有害性	データなし	データなし

12. 環境影響情報

	次亜塩素酸ナトリウム	アルキル アミノオキシド
生態毒性	水生生物に有害で、LC50/96 時間は、フ ア ッドヘッドミノー(魚類)に対し 5.9mg/l グラスシュリンプ(甲殻類)に対し 52.0mg /l	魚毒性：LC50 10-100mg/L (96h/zeda fish/OECD 203) ミジンコ毒性：EC50 10.4mg/L (48h/Daphnia magna/OECD 202) 藻類毒性：EC50 0.82mg/L (72h/Scenedesmus subspicatus/OECD 201) バクテリア毒性：EC50 190mg/L (Pseudomonas putida/DIN 38412T. 8)
残留性/分解性	データなし	生分解性 >80% (OECD 302B) 80% (28d/OECD 301B)
生体蓄積性	データなし	データなし
土壌の移動性	データなし	データなし
その他	データなし	DOC：123mg/g COD：360mg/g

13. 廃棄上の注意

- 廃棄残余物 : 廃液およびマッドはそのまま廃棄すると土地、河川を汚染して農作物、魚介類に影響を及ぼすので、そのまま廃棄してはならない。
- 汚染容器及び包装処分上の注意 : 空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に、各自治体の指定する方法で処理する。

14. 輸送上の注意

- 国際規制
- 国連番号 : 1791
- 品名(国連輸送名) : 次亜塩素酸塩(水溶液)
- 国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 8
- 容器等級 : III
- 海洋汚染物質 : 該当
- 国内規制-陸上輸送 : 消防法、毒劇物取締り法、高圧ガス保安法、道路法等に定められている輸送方法に従う。
- 国内規制-海上輸送 : 船舶法に定められている輸送方法に従う。
- 国内規制-航空輸送 : 航空法に定められている輸送方法に従う。

15. 適用法令

- 消防法 : 非危険物
- 労働安全衛生法 : 表示対象物質に該当しない
通知対象物質に該当しない
- 毒物及び劇物取締法 : 該当しない
- 化学物質排出把握管理促進法 : 該当しない

16. その他の情報

引用文献

- 産業衛生学雑誌 Vol.48(2006)
- ACGIH TLVs and BEIs Based on Documentation of the Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents & Biological Exposure Indices (2006)
- 日本化学会編、“化学防災指針7”，丸善(1980)
- 門馬純子ら：食品衛生学雑誌，Vol.27，P.553～560(1986)
- 東京連合防火協会編、“危険物データブック”，丸善(1993)
- Fd.Chem.Toxic. Vol.26, No.6, pp487～500(1988)
- 化学工業日報社編、“化学品安全管理データブック”(2000)
- 古川ら：衛生試験所報告98, 62(1980)
- Curtis,M.W.,Ward,C.H.:Aquatic toxicity of forty industrial chemicals: Testing in support of hazardous substance spill prevention regulation. Journal of Hydrology 51,359-367 (1981)
- NITE 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS関連情報

その他の参考文献

- 日本ソーダ工業会編、“安全衛生手帳 2002”
- 日本ソーダ工業会編、“次亜塩素酸ソーダ輸送設備取扱マニュアル”(1990)

注意

:

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。尚、営業秘密である成分情報は非開示(濃度においては幅記載を含む)と記載している場合があります。注意事項は通常の実施を前提としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。すべての化学品には未知の有害性があり得るために、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。